



令和2年7月豪雨災害

7月3日からの大雨により、九州北部地方を中心に大きな被害が生じました。被害を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

日本赤十字社では、発災直後より被災地への医療チームを派遣し、ケガをされた方や健康面で不安がある方々を無償で診療させていただくほか、ボランティアのご協力を得ながら避難所へ毛布などの救援物資を配布しています。

引き続き、被災地のニーズにあわせて活動してまいります。



家で泥のかき出し作業などを行っている時、足をケガしてしまった宮原さん。

「腫れてきたので心配で… お医者さんに診てもらえてほっとします」日赤医療チームの診察を受け、安心された様子でした。



足を痛めてしまい、避難所で日赤医師の診察を受けた土屋さんは、

「医師が来てくれてよかった。今夜、安心して眠れます」と語っていただきました。



熊本県青年赤十字奉仕団の皆さんは、

「熊本地震を機に訓練や研修を重ねてきました。これらを活かして全力で活動します」と、被災された方々を支援するため、被災地に関する情報収集や救援物資の運び出し作業などを実施しています。

これらの被災者を救う活動はみなさまからお寄せいただくご寄付によって行っております。日本赤十字社の活動をご理解いただき、活動資金にご協力いただきありがとうございます。

これからも日本赤十字社は、災害時の医療の無償提供、物資提供など被災者に寄り添った活動を続けてまいりますので、活動資金へのご協力をよろしくお願いいたします。



●医療面での活動

- ・一時滞在施設への医療チームの派遣。
- ・長岡赤十字病院での感染者の受け入れ。
- ・支部にて病院で不足している物品の一部を確保。



●感染防止のための活動

- ・あたたかみのある手作りマスク作製&児童養護施設等への贈呈

日赤のボランティア組織である奉仕団の皆さまのご協力のもと、布マスクを作製し、手書きのメッセージカードを添えて児童養護施設等へ寄贈するプロジェクトを実施。



- ・感染拡大防止のための情報発信
「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」に
県内フリーアナウンサーのご協力のもと、
ナレーションを付けた動画を作成し、普及促進。



↑ ホームページへリンク

●安定的な血液供給のための活動

- ・感染予防のための予約献血の推進、
広報活動を強化し、必要な血液量の確保。

他に代わるものがない献血へのご協力は、
不要不急の外出にはあたりません。
ご協力を何卒お願いいたします。

